

人権啓発ネットワーク大東機関誌 第20号

2021年3月

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

人権週間記念のつどい



2020(令和2)年12月4日(金) サークルホール

ドラマやバラエティー番組、CMでもご活躍の奥山佳恵おくやまよしえさんは、手を振りながら元気に舞台の前の端まで小走りで登場され、「こんな前まで出てくる予定じゃなかったんです。」と笑いながら演台まで戻られました。

～ ～ ～

2001年に結婚し、翌年28歳で長男を出産しました。寝ない子でした。がんばり過ぎて育児うつになりました。ママ友ができて笑顔を取り戻し、「子育ては、一人でやらず多くの味方を作ることだ!」と、『眠れぬ森の育児』という本を書きました。

子育てが大変だったこともあり数年空きましたが、37歳で「今度こそ笑って子育てを。」と、色々調べて自宅出産を選びました。そして、次男のみらい美良生を産みました。

みらい美良生の心臓には穴が空いていました。そして一月後、「ダウン症という障がいがある。」と告知され、心にケガを負ったようなショックを受けました。ただ、「目の前のこの子が可愛いことだけ分かる。」と涙が出ました。小さなみらい美良生が心臓手術から生還したとき、夫は、「この瞬間に父親になれた。」と言い、私も（命を守るんだ!）と、力がみなぎりしました。

みらい美良生のことを、周りの人に伝えていきます。「ダウン症がある。」という自分の口から出る言葉に、自分で傷付きました。それも、だんだんカサブタになっていき、心に筋肉がついていくようでした。近い人から順に言っていました。母にはなかなか言えませんでした。一番仲が良く、いつも明るい母。この人の顔がもしも曇ったら…。勇気を振りしぼって電話をしました。役者のくせに棒読みで「みらい美良生にダウン症がある。」と言うと、「あっそうなんだ。一緒に育てていこう。」と明るく応え、いつも通り食べ物のお話へ。言えて良かった。いつもの母で良かった。本当は母は、は

(↓ご講演中の奥山佳恵さん)



じめから知っていたのです。これまで、食欲のない私の心配をして、わざと食べ物の話ばかり明るくしていたのです。

当時小4の長男には、待望の弟です。ダウン症と聞いて、「おしゃべりができない。」とショックを受けていました。同級生にダウン症の子がいて、その子はおしゃべりが不得意だったのです。(長男のケアも必要?)と思いましたが、翌日はいつも通りでした。「よく考えたら、^{みらい}美良生は^{みらい}美良生。今まで通り遊ぶ。」とケロッとしていました。

(ダウン症って、怖いモンスター?)と、告知されたときは、暗い山道に放り出されたように不安でしたが、家族として過ごすとは何てことはありません。(可愛くてしかたがない!)(これをそのまま伝えたい)と、家族の様子をブログしています。^{みらい}美良生が3歳のときには24時間テレビにも出ました。大きなことではなく、楽しくて幸せな生活なのです。

^{みらい}美良生のおかげでドラマ『コウノドリ』にも出ました。10、11話は、「出生前診断」がテーマでした。妊婦の羊水を検査するとダウン症があるか分かります。陽性(ダウン症)だと、9割が^{だいたい}墮胎するそうです。理解はできます。^{みらい}美良生に会うまでは、きっと私もそうでした。でも、^{みらい}美良生は自宅出産で出生前診断をせず、(ダウン症が分からずに生まれてきて良かった。)と本当に思います。どんな子が生まれても大丈夫という世の中が幸せなのです。^{みらい}美良生の一つの特性として、ダウン症なだけです。

(↓当日の様子は動画でも配信されました。)



友だちと二人にシャボン玉を渡すと、^{みらい}美良生はすぐに逆さまにして全部捨てます。(あ〜あ)と笑って見ていると、友だちが^{みらい}美良生の分もと、たくさんシャボン玉を吹きました。5歳の子には、障がい・ダウン症の^{がいねん}概念がありません。ただ、その人を見ているのです。

知り合いの重度障がい者は、胃ろう(口から食べられず、腹などに穴を開け、チューブで食事をする。)をしていて、しかもお酒を飲みます。「胃ムリエ(=胃のソムリエ)」なんて自分で笑う彼女という、車いすが見えなくなって彼女自身を見るようになります。障がい者という先入観よりも、その人自身を知ることが大事なのです。

^{みらい}美良生は、小学校の^{げんがっきゅう}原学級へ通っています。できないからこそ、皆と一緒に、地元の子とのつながりを作って欲しいのです。できないことは悪いことじゃなく、障がい者は少数派なだけです。分けて暮らすのですか?みんな歳を取って、できないことが増えてきて、少数派に向かっているのですよ。少数派が生きやすい世の中は、将来の私たちに返ってくるのです。できないことを、丸ごと受け止めていきましょう。むしろ次男は、家族で唯一靴を揃えられます(笑)。長男と違って、すぐに寝ます。色々な人が生きやすく、デコボコだから世の中は回るのだと思います。

～ ～ ～

あっという間にご講演は終了の時間となり、感想・質疑応答となりました。会場からは、「小さいときから知り合い、ふれ合う場所があれば良いなあ。」「明るく元気な佳恵さんに、勇気をもらい

ました。佳恵さんを育てられたお母様を尊敬します。ありのまま受け入れることが大切なのですね。「学校や施設には、色々な人が居るべき。誰でも存在そのものが大事。」「ブログを観ています。佳恵さんには友だちが多いですが、作る秘訣は？」 佳恵さん>「考えて行かない。取りつくろわない。次男をどこにでも連れて行きました。地域の子としてなじみました。」

そして最後に、「大東にまた来ます。大東の皆さんは家族です。続編を聴きにまた来て下さい。」「今日は、『子どもが可愛い』という話をしに来ただけですね（笑）。」と締められました。

ご苦労や辛いこともあろうかと思いますが、佳恵さんは、ありのままを受け入れて、子育てや生活を楽しんでいるように思われました。私も障がい者と関わる仕事をしていますが、（どうして、できないんだろう？）と腹を立てたり、やれるように仕向けるよりも、（そうか、できないねんな。）と、ありのままを受け取りながら、一緒にやれることを楽しみながら作っていくと、関係がうまくいったり、教えてもらうことが多いという経験があります。「デコボコだから世の中が回る」という言葉、素敵だと思います。

（レポーター：あき）

となりの い い 生き生きサン

ここでは、大東市の人権推進につながる取り組みを行ってられる方々や団体の紹介をさせていただきます。

市民劇団えん

大東市で唯一の「市民劇団えん」の練習に、おじゃましてきました。

練習は、毎週土曜日 13時半～16時半に大東市総合福祉センターの3階で行われています。その日（12月12日）は、団員23名中14名（10～69歳）の参加で、寒いけど戸も窓も開け放ったままです。皆で新型コロナウイルス対策を打ち合わせた後、個々にマスクをしたまま発声練習をしていると、小道具の棚がガチャンと崩れて沖縄三線さんしんが壊れてしまいました！団員数名が急いで木材を買いに走り、早速練習場でトンテンカンと作り直します。

今年度の定例公演「島のよろず屋」一場面の練習が始まりました。登場人物の男性が来るまで、座長の中村さんが、島の「おばあ」の格好のまま代役を務めます。脚本・演出・監督・音響の豊芦さんから、「今、どんな気持ち（演技）した？」「腕を、鼻の高さまで上げてみよう。」「いつも（暗い）語り口調になるなあ。ハイ、もう一回。」と声が飛び、演者と言葉のキャッチボールをしながら、役が出来上がっていきます。「アカン！気持ち作られへん！」「本番は、いつも120%の力が出るから大丈夫やね。」と、笑顔が飛び交います。



（↑練習中の様子）

(↓練習後、見学に来られた方を囲んで)



見学の方が居られました。未経験だけど演劇に興味があり、ホームページで探して来られたそうです。寒い中ずっと椅子に座って、最後まで観ておられました。練習が終わって、団員全員が、その方を取り囲んで自己紹介をしました。楽しく仲良しな「市民劇団えん」で、その方も演技される日が楽しみです。

「市民劇団えん」は、平成20(2008)年に大東市の認知症啓発事業の一つとして生まれました。最初はプロが脚本を書き、役者を募集して、認知症キッズサポーター養成講座や、高齢者虐待防止対策委員会などで、啓発劇を積み重ねてきました。その後も、演劇の楽しさに「ハマ

まった」市民が、自分たちで脚本を書いて、毎年2、3回の公演を続けてきました。劇と共に、ゴスペル、ジャズバンド、講演などとのコラボ企画もありました。

毎回のテーマは、様々な立場(福祉、教育、会社員、学生…)の団員全員で話し合って決めていきます。高齢者や介護のことはもちろん、ジェンダーや、いじめ、嫁姑問題に、発達障がい…。団員にエピソードや想いを聴きながら、また、グループホームなどに取材に行ったりしながら、皆で作ります。一貫しているのは、多様性「いろいろな人が居るからすばらしい」ということです。

今年度は、残念ながらコロナ禍のため、普段の公演を控えざるを得ませんでした。「でも、やっぱり定例公演は！」と練習に励んでいた「島のよろず屋」も、1月の緊急事態宣言を受け、残念ながら延期となりました。コロナ禍が落ち着き、お客様に安心して来ていただけるようになったら、すぐに公演したいのですが、しばらくは練習もお休みします。

(定例公演が決まりましたら、人権啓発ネットワーク大東のフェイスブックなどでも皆様にお伝えします。筆者もぜひ行きたいと思います。)

これまでは、大東市の補助金がありチケットは無料でしたが、それが無い今は大変申し訳ありませんが、お一人500円を頂戴^{ちょうだい}します。また、ファンクラブ会員(個人・企業)というものもあり、資金面でお手伝いいただくこともできます。そして、団員も絶賛募集中(会費月千円-大人のみ)です！役者でなくても、照明や裏方も助かります。

身近な社会問題をテーマに、演劇のすそ野を広げ、演劇を通して大東市がより豊かな街になると考え活動している「市民劇団えん」。これからも、応援していきます。(レポーター：あき)

「市民劇団えん」

詳しくは、ホームページ
フェイスブック
Facebook

<https://shimingekidanen.wixsite.com/mysite/?lang=ja>

<https://www.facebook.com/shimingekidanen/>

★↓QRコードからでもご覧になれます！



お問い合わせは、
座長：中村(090-8886-5373)さんまで。

シリーズ —新型コロナウイルスと人権— その3

～ イベント活動自粛を通して見えてきたこと ～

私は、大東市・四條畷市を中心に活動している「クレヨン・リンク」という障がい者支援の「市民サークル」の運営にも携わっています。「クレヨン・リンク」は、地域で障がい者が当たり前で暮らしていける、ということをめざし、障がい者福祉制度の枠に留まらず、障がい当事者と地域がコミュニケーションを取れる場、また家族を中心としたヘルパー、支援員などの「支援者」同士がつながり合うことの出来る場をめざし、2014年6月の設立からイベント活動を中心とした取り組みを進めてきました。

例えば、観光バスを借りてみんなで味覚狩りに出かけたこともあります。クリスマスパーティーを開催し、みんなでケーキをデコレーションしたり、歌や踊りの「出し物」の発表なども行いました。みんなで公園に行き、春にはお花見をしたり、秋には「公園内を散策し、秋を見つけよう」というオリエンテーションのようなイベントの開催もしました。

そのような「楽しむ」イベントだけでなく、障がい者メンバーの生い立ちを聞き取る「講演会」活動、「障害者差別解消法(合理的配慮)」についてや、当事者の語りを通じて学ぶ

(↓2019年にはスケートに行きました)



「発達障がいって何？」という学習会など、ともに学び合う取り組みにも力を入れてきました。

季節ごとの単発のイベントでは、どうしても「交流」の場としては少ないということも分かり、この2年ほどは月に一度定例で、パラスポーツ「ボッチャ」の体験交流会や、自分も相手も大切にコミュニケーション「アサーション」の勉強会を開催することができました。少しずつクレヨン・リンクのことを知ってくれる人が増え、イベントにも多くの障がい者・支援者・ご家族にご参加いただきました。

しかし2020年、新型コロナウイルスの流行により、このような取り組みを「停止」させざるを得なくなりました。障がい特性により、重症化の恐れのある方もおられ、「命を守る」ためにもそれは仕方のないことだったと思います。ただ、「それだけではいけなかった」と思うことがたくさん起こりました。

ある知的障がい者メンバーに、ある日「どこもイベント無くなって悔しい」と吐露されたことがあります。その方はお散歩が好きで、よく公民館などにも行き、おしゃべりを楽しむような方です。そういった「居場所」も次々と臨時閉所してしまい、行き場を失ってしまったのです。「悔しい」と吐き出してもらえた日に、「コロナが流行っていて・・・とか、テレビでやっているけど知っていますか？」ということを知りました。「分からへん」とのこと。テレビを見ていても、一体新型コロナウイルスが何で、なぜみんな「自粛」しているのかなど、その方には「分からへん」だったのです。今、何が起こっていて、なぜ自粛や閉所されているのか、その方には分からないまま「居場所」だけを失っていたのです。

他の精神障がいのある方からは、「コロナが怖くて外に出られない。ヘルパーが家に来るのも怖い」と打ち明けられたことがあります。「緊急事態宣言」も明け、少しずつ日常が戻りつつあったころも、「頭では(心配しすぎなことは)分かっている。けど気持ちがついてこない」と言っておられました。連日の報道に心をすり減らし、「テレビを見ることすら怖い」とも。

もちろん、優先されるべきは「命」です。しかし、そういった障がい者の「理解」や「安心」に私はどれだけアンテナを張っていたのでしょうか。「命を守るために仕方がない」と、「気持ち」のことは後回しにしていなかったのでしょうか。ここに挙げたエピソードは間違いなく氷山の一角でしょう。声を上げる機会すらなく、自分の中にしんどさを閉じ込めざるを得ない方が、まだまだたくさんいるはず。そんな人たちと、一緒にこのコロナ禍を乗り越えていくためにはどうしたらいいのでしょうか。今のご時世だからこそ、改めて地域が「つながり直す」方法を諦めずに模索し続けることが、「地域で誰もが安心して暮らしていける」ことにつながるはずだと強く感じました。

実際に面会しなくても、顔を見合わせてコミュニケーションを取る術が急速に広がりました。「Zoom」をはじめとする「web会議システム」です。これは非常に画期的なものだと思います。これにより、府外の方とつながることができた、という、新たなつながりも生まれました。自宅から、施設から、イベントに参加するというつながり方も手に入れました。「現地に行かなくても参加できる」からこそ、参加のハードルが下がった、ということも聞いたことがあります。

しかし一方で、「web会議システム」が難しく使いこなせない、という方も多くいます。これは障がい当事者さんだけでなく、支援者の中にもです。また、様々な理由で、「web会議システム」を利用できる環境にない方も大勢います。そして、そういった方々の層は、先ほどの例のように報道がうまく理解できず「居場所」だけを失ったり、大きな不安によって、身動きが取れなくなってしまうなど、多くの「しんどさ」を抱える障がい者さんたちと重なっていることが多いと、この間感じてきました。つまり、何が言いたいかというと、「web会議システム」等でつながりができたと安心しては、本当につながりが必要な人、困っている人、しんどい思いをしている人たちのことを切り捨ててしまうのと同じことになりかねない、ということです。

少し話は変わりますが、クレヨン・リンクはイベント活動自粛中に「イベントはできなくても、今できる事を少しでもやろう」と、Facebookやインスタグラム、Twitterなどを通じた情報発信や、ステイホームでのほんの少しの暇つぶしにと、YouTubeへの動画投稿などを行ってきました。もちろん、それが今のクレヨン・リンクにできる精いっぱいだったのですが、このような取り組みも、本当に必要な人たちに果たして届いていたのか、もっと他にできることはないのかと、今も考え続けています。

今、何をするのが「正しい」のか、どうすれば、どんな困りごとに働きかけることができるのか、全てのことが「初体験」な状態です。私たちの取り組みが、少しでも誰かの支えになっていればいいと願いつつ、一步一步取り組みを進めていこうと思いました。

そして安心してイベントも開催できるようになったとき、みなさんと元気な顔でお会いできることを楽しみにしています。



←ホームページもありますので、ぜひご覧ください！

(オリジナルキャラクター:クレリン→)



(ライター:卓ちゃん)

つながる ぬくもり

～2020年を振り返って～

こんなときこそ、あったかい大東市をめざしましょう

2/8 (土)

サーティホール

2020 ヒューマンコンサート

「^{ギフト}GIFT ～目で聴くパフォーマンス～ ^{スリー ピース}Three pieces」

出演者は、スリーピースの二人、強力 翔（ごうりき かける・写真右）さんとyossy（ヨッシー：パフォーマー・写真左）さんでした。yossyさんは全く耳が聞こえません。強力さんの伸びのある声とyossyさんの手話パフォーマンスが美しいミュージカルのように、観客を魅了しました。強力さんも30歳にして手話を覚え、二人共に^{はくしん}迫真のパフォーマンスです。二人の願いは「障がいがある方、年齢や国籍…、みんなが居心地の良い世の中にする事。」とのこと。楽しいトークを交え、心温まるコンサートになりました。



10/31 (土) ～11/1 (日)

サーティホール 1階市民ギャラリー

平和パネル展

「高校生が描いたヒロシマ『原爆の絵』展」

広島県立^{もとまち}基町高等学校の生徒が、被爆体験証言者の方とともに「次世代と描く原爆の絵」を平成19年度より毎年、制作しています。完成作100点以上の中から一部をお借りして展示しました。作品には平和へのメッセージがしっかりと込められていて、感想では、「絵を描いた高校生の気持ちが伝わってくる。意義深い取り組み」、「高校生が描いたとはおもえないリアルな絵で、衝撃を受けました。」「今後も期待しています。」と、この平和パネル展が意義のあるものであったことを示す内容が書かれていました。

10/7 (水) から5週連続

大東市民会館

2020 市民じんけん講座

5つのテーマを5週に渡って学びました。①「思い込みから自由になる～人権感覚をみがくために～」、②「ヘイトスピーチと闘う、人権教育と出会いのワクチン」、③「西成高校における『ともに学びともに育つ』教育の取り組みについて」、④「部落問題と向き合う～自身の出自を通じて～」、⑤「虐待からの回復―世代をこえて」という内容でした。感想も、「本当に考えさせられることがいっぱい。これからもっと人権について考えます。」「ヘイトスピーチについて考える良い機会になりました。」「自分の子供がと考えると、このような受け入れをしてもらえるととてもありがたいです。」「私なりに知識をつけていきたいです。」「講座（虐待について）を聞く前と後で考えが変わったと思います。」などと、人権について考える良い機会になったというものが多かったです。

↓市民じんけん講座 会場の様子



人権啓発ネットワーク大東とは

近年、子ども・障がい者・高齢者等への虐待や特定の民族に対する憎悪表現など多くの人権問題がニュース等で取り上げられています。社会環境が大きく変化し、まだまだ「人権」が尊重されていない状況が現在の日本には存在しています。

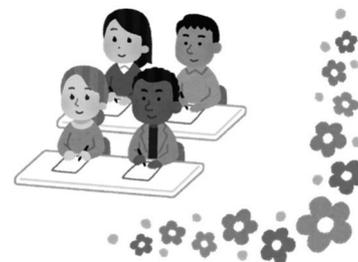
大東市では、人権尊重のまちづくりをめざし、市民による市民のための自主的な組織として「人権啓発ネットワーク大東」が2013年4月1日に設立しました。

目的

一人ひとりが生まれながらにもっている基本的人権が尊重される社会の実現に向けて歩み続けるため、自らの人権意識を高め、お互いの人権を認め合うとともに、わたしたち市民が行政と協力して、人権啓発活動を積極的に行い、人権尊重のまちづくりをめざす。

活動内容

- ・自らの人権意識を高めるための研修会などへの参加・参画。
- ・人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。



☆入会案内

「このまちをよりよくしたい。そのために何かをしたい。でも何をしたいかわからない…」というあなた！お互いの人権を認め合い、地域の発展、人権尊重のまちづくり、そんな社会の実現に向けて、一緒に活動しませんか？

※詳しくは大東市ホームページ (<http://www.city.daito.lg.jp/>) に掲載していますのでご覧ください。

※「人権啓発ネットワーク大東」の Facebook も開設！

様々な活動の報告など、情報発信していますので、こちらもぜひご覧ください
(<https://www.facebook.com/人権啓発ネットワーク大東-1987405014833313/>)



入会等の申し込み・問い合わせ

人権啓発ネットワーク大東事務局（大東市人権室内）
〒574-8555
大東市谷川1丁目1番1号
TEL：072-870-0441
FAX：072-872-2268
Eメール：j_keihatsu@city.daito.lg.jp

